

今回のときめき企画は「ぐにゃぐにゃだこづくり」!!

小春日和の柔らかかな日差しが心地よく感じられるこの時期、紅葉を見つげに散歩するのも楽しいです。黄色く色付いた袖子でジャムや柚子茶を作ってほっこり温まるのもいいですね。

今回は、ときめき隊の隊員で小美玉市高崎地区にお住いの高崎税(ちから)さんを取材します。



ときめき隊(ときめき美の小径 企画委員)
 たか さ き ちから
高崎 税 さん

「皆さんに喜んでいただけることに携われるのは嬉しいです」と笑顔で語る高崎さん。

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
 のすすめ No.113

是非おやこ一緒に楽しんで下さい♪

高崎さんはときめき隊に入ってから約10年になります。「ときめき隊に入る前は、みの〜れが遠くにあって敷居も高い感じがしていました。が、知人に声をかけてもらって、芸術や伝統工芸に興味があったので手伝いましょう」と入隊しました。当時は、「館内の通路を画廊に」という発案から、「ときめき隊」や「ときめき美の小径」などの名前や規約を話し合いで決めました。翌年に展示してくれらる人を市内・市外問わず公募して第1回の企画展を行うことが出来ました。ときめき隊のメンバーはいろいろな場所で活躍している人や器用な人も多く案内板なども木を彫ったりして全て手作りで作成しています。道具もどうにか揃っています。とにかく凄いですよ!ときめき隊には

隊長がいなくて、みんなが平等です。最初から隊長は置かないというコンセプトだっただけなんです」と高崎さんは懐かしそうに話してくれました。

ときめき美の小径への展示に加え、4年前から何か手作りの物を作ろうという事になって、凧作りを始めてみました。「自分達が子ども達の頃にやっていた楽しかったですからね。今の子ども達にもものづくりの楽しさを知ってもらいたかったのです。おやこで凧を作ることによってコミュニケーションが取れていいのではないかなと思ったのでも始めた理由のうちのひとつです。毎年、参加してくる子ども達といろいろな凧を作っていたらいいなと思います」と高崎さん。

高崎さんに趣味について聞いてみると、「遺跡を観に行き、また、毎年6月には札幌に『よさこいソーラン』を観に行きます。よさこいを初めて観た時はその場に立って

られないほど感動しました。よさこいは踊りも衣装もまさに芸術ですね」と話してくれました。

「8月に水鉄砲を作った際も、メンバーみんなで事前集まって実際に試作したり、どのようにすれば子ども達も楽しいイベントになるか何度も話し合いました。今回も11月23日(水・祝)に予定している『おやこで凧づくり』に向けてメンバーみんなが一丸となって準備をしています。是非おやこ一緒に楽しんでいただきたいと思います」と話してくれました。

最後に高崎さんは、「これからもより多くの方に、ときめき美の小径に来ていただくと、今まで体験してないことを体験したり、見たことのないものを見て、是非その場に立っていられないぐらいの感動を味わってもらえたらいいな」と楽しそうに話してくれました。

(藤田佐知子)